



飯尾医院が閉院

56年間、本町の医療に貢献

6月末で城川内の飯尾医院が閉院となり、院長の飯尾一成さんの息子である飯尾一登さん（鹿児島市）が6月29日、報告のため、来庁しました。

同医院は昭和37年に開業し、56年間、本町の地域医療を支えてきました。飯尾一成さんは同医院以外でも、特別養護老人ホームあかね園の理事長を務めたり、旭日双光章を受賞されたりするなど本町の医療・福祉の振興に尽力されました。

飯尾一成さんの「今までお世話になった長島町に恩返しをしたい」という感謝の意を込めて、飯尾一登さんから寄付金が贈呈されました。



↑川添町長に寄付金を贈呈する飯尾一登さん（写真左）

社会を明るくする運動伝達式

安心な地域社会を築くことを誓う

毎年7月は「社会を明るくする運動」強化月間です。この運動の啓発を図ろうと7月2日、役場玄関前で伝達式と出発式がありました。

出水保護区保護司会長島支部の兒玉誠保護司が内閣総理大臣からの、同支部の石元久遠保護司が県知事からの社会を明るくする運動メッセージを川添町長へ伝達しました。

川添町長は「町として、町民が一致団結し、犯罪のない町づくりを推進します」とあいさつしました。



↑兒玉保護司（写真左）から伝達を受ける川添町長

川床中学校で情報モラル教育

ネットの安全・安心な利用を学ぶ

川床中学校は平成30年度と平成31年度、県の「情報モラル教育」の研究指定校とされており、定期的に外部講師を招くなどして、情報社会を健全に生きていくための教育に取り組んでいます。

7月2日は、鹿児島大学の山本朋弘准教授を招き、全校生徒52人を対象に「スマートフォン・インターネットの安心・安全な利用」について講演がありました。ネット依存の危険性や会員制交流サイト（SNS）の正しい使い方などについて、説明がありました。

1年生の田中健優さんは「ネット上での個人情報の扱い方には気を付けたい」と感想を話しました。



↑ネット依存の危険性を学ぶ生徒ら